

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-7	高感度磁気非破壊検査による目視不可能な箇所の損傷の検出についての技術研究開発	岡山大学 教授 塚田 啓二	B
<p><研究の概要></p> <p>高感度磁気非破壊検査により、目視不可能な箇所の鋼部材に生じた腐食、疲労、破断などの損傷や欠陥を検出する技術開発を行う。具体的には、水中部の鋼製橋脚など付着生物を除去せずに残存板厚を計測する方法、照明・標識柱や鋼製橋脚の基部などのコンクリート埋設部や、閉じ断面内の腐食と疲労亀裂を検出する方法、コンクリート中のアンカーボルトの腐食を検出する方法、溶接内部の不良や欠陥を検出する方法に関する技術を開発する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>水中部の損傷検出技術やアンカーボルト・溶接部の不良検出技術のフィールド評価など、研究開発は順調に進んでいるが、技術の実装に向けた研究計画に課題があることから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究で取り組んでいる水中部の損傷検出技術などについては、それらの実務での利活用を見据えつつ、定期点検における技術活用の実情を踏まえ、本技術の計測原理や性能、適用範囲や精度確保のための操作手順等が明確化されるように研究を進めていただきたい。 2. 研究計画の策定にあたっては、成果に係る知的財産の取扱等に留意すること。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第39回新道路技術会議において審議したものである。